

都市行政調査報告

日 時：令和 6 年 3 月 28 日（木） 9：30～11：30

場 所：静岡県松崎町宮内 301-1

松崎町役場 電話：0558-42-3961

調査項目：今後の姉妹都市交流の在り方について

1. 調査概要

松崎町と本市は、松崎町出身の帯広開拓の祖である依田勉三が率いた晩成社の入植を縁に昭和 53 年に開拓姉妹都市提携がなされ、以来様々な交流が行われてきたが、これまでの交流の経過と内容を検証し、これからどのようにして、両自治体の交流と発展につなげるか見識を深めるため、調査を行った。

2. 質疑応答

Q. これまでの交流を通じて改善点や要望などは？

A. 現状の交流で、問題はないと考えているが、今後はお互いのまちの特産品など物産の販売強化を図っていききたい。

Q. 旧依田邸は、依田家より旅館の廃業に伴い、町に移管されたと聞いたが維持管理は、どのようになっているのか？

A. 今から 300 年前に建てられた建物であり地域で二番目に古い建物である。静岡県の文化財に指定されているが、維持管理の費用等は県からは支出されておらず、入館料も無料としているため、費用の捻出が厳しい状況である。

Q. 町の人口が、年々減少しているようだが、合併などはしないのか？

A. 以前合併の話し合いもなされたが、西伊豆地区の歴史的な背景もあり、それぞれのまちで観光資源も有しており、現状では、自主自立のまちづくりを維持している。

3. 所感

現在の交流内容としては、特産品の交換・親善訪問交流・小学生の交流・人間ばん馬の参加・民間交流・帯広百年記念館の調査・東京帯広会との交流・物産の販売などが主であるが、特産品の相互販売の強化や学校教育の場で、お互いのまちを理解し勉強することが必要だと考える。帯広市においても、歴史ある松崎町の魅力を市民に伝え、さらなる相互交流を深めるため、今後とも姉妹都市交流の在り方について議論して参りたい。

日 時：令和 6 年 3 月 28 日（木） 15：00～16：30

場 所：静岡県静岡市駿河区谷田 52 番 1 号

静岡県立大学 電話：054-264-5000

調査項目：静岡市と静岡県立大学の連携による防災(地震)の取組みについて

1. 調査概要

静岡県立大学では、地震と火山と防災について市民向けに毎年講座を開催しており、地震と火山の噴火について、いつ起きても対応できるよう、防災意識を高める取組みを行っており、その内容について調査してきた。また、昭和 5 年に発生した北伊豆地震による大きな断層のずれが見られる丹那断層についても視察してきた。

2. 質疑応答

Q. 本年 1 月 1 日に発生した能登半島地震の予知はできていたのか？

A. 過去に何度も、能登半島での地震の発生について講演し、警鐘を鳴らしてきた。中小規模の地震が頻発しているときには、やがて大規模な地震が起こる場合が多いというのは地震学の常識である。当然今回の地震にも当てはまるし、現在千葉県東方沖に起こっている地震群にも当てはまる。

Q. 千島海溝での巨大地震の可能性は？

A. 歴史的にみても、200～300 年の周期で巨大地震が発生している地域である。前回の発生から想定して、いつ発生しても不思議ではない地域である。また、北海道西部は静かに見えているが、静かということは大きなエネルギーが蓄積されており、間もなく大きな地震が起こることになる。

Q. 静岡県立大学の地震に関する取組み状況は？

A. 大学内に研究グループを立ち上げており、新手法により独自の監視活動を続けており、地震と火山活動について市民に向けて啓発活動を行っている。

3. 所感

千島海溝では、2008 年の地震を最後に大きい地震は発生していないが、過去の記録と現在の観測データを照らし合わせると、いつ超巨大地震が発生しても不思議ではない状況であり、日ごろから市民に対し、地震に対する備えと防災行動の大切さを理解してもらえる取組みが必要であると感じた。

帯広市においても、市民向けに避難訓練等はおこなっているが、防災に対する理解をさらに深めてもらうよう幅広い分野で連携強化することが重要であると考えている。

以上